

2018 年度 IT 講習会に関する報告

大平 哲史[†], 内田 瑛[†], 槌屋 洋亮[†], 丸山 広[†], 高橋 佑輔[†]

抄録 本報告は、青山学院大学における新入生の必修科目である情報スキル I の単位を取得するために履修する必要がある IT 講習会について、その概要について述べると共に 2018 年度の履修状況の提示および考察を行い、今後の課題について言及する。

キーワード : IT 講習会, 情報スキル I

The report regarding IT Course of the fiscal year 2018

Tetsushi Ohdaira[†], Hikaru Uchida[†], Yosuke Tsuchiya[†], Hiroshi Maruyama[†], and Yusuke Takahashi[†]

Summary This report describes the outline of IT Course that is necessary for freshman students of Aoyama Gakuin University to take it to earn a credit of the required subject, Computer Skill I, presents and discusses the course status of the fiscal year 2018, and mentions the issue in the future.

KeyWords : IT Course, Computer Skill I

1. はじめに

IT 講習会は、本学全学部の新入生に対して必修科目として位置付けられている情報スキル I 科目における単位取得のために履修する必要がある、情報メディアセンターが主体となって運営する講習会である[1]。情報スキル I 科目は、青山スタンダードの「情報と技能の領域」におけるコア科目であり、IT 講習会の運営においては青山スタンダード教育機構とも密接に連携している。本科目の特徴は、一般的な座学形式の講義と異なり、履修者自身が学習計画を立て、それに基づいて IT 講習会スキルチェックシステムという e-Learning システムを活用しつつ段階を踏んで学び、問題点が生じればその都度さまざまな手段を用いて解決するという、いわゆる自学自習形式となっている点にある。自学自習は大学における基本的な学習形態であり、履修者は IT 講習会の履修を通して、日進月歩の情報技術 (IT) の変化に対応できる能力を身に付けることができ、さらに高校までの受動的な学習から大学における能動的な学習へとスムーズな転換を行うことができる。

IT 講習会の具体的な学習内容は以下の 3 点である。

1. 情報モラル・ネチケット (入門編および実践編)
2. PC の基本操作
3. Office アプリケーションの使い方 (文書作成, 表計算, プレゼンテーション)

インターネットの利用は日常的なものとなっている

が、その一方で利用上のモラルやマナー (ネチケット) は幅広く浸透しておらず、とりわけインターネット上のソーシャルメディアでの不用意な発言により、トラブルに巻き込まれる事態が毎年のように発生している。さらに PC は社会生活における必須ツールとなっており、卒業後も様々な場面で PC に習熟していることが求められている。したがって、IT 講習会で課されるこうした内容を習得することにより、学生は大学を卒業した後社会人として必要とされる IT の素養を身につけることができる。

そして履修者の自学自習をサポートするのが、教員ではなく IT 講習会補助員 (以下 IT-A) と呼ばれる学生アシスタントであることも IT 講習会の大きな特徴である。IT-A は IT 講習会を修了した学生の中で、書類選考および面接選考に合格後、研修を受けた特に優秀な者で構成され、履修者が陥りやすい誤りについて指導するだけでなく、教えることを通じて IT-A 自身も成長できるという好循環が生まれている。

本報告書では、以下青山キャンパス、相模原キャンパスの 2 つに分けて 2018 年度の IT 講習会履修状況を提示し、考察を述べ、そして 2017 年度より運用開始した、IT-A が履修者から受けた質問を記録している Web ベースの質問記録システム[5]に蓄積された質問内容について述べ、さらに IT-A が受ける研修内容について記し、最後に今後の課題について言及する。

2. 2018年度のIT講習会履修状況

2.1 青山キャンパス

まず、時系列での学年別合格率推移について、図 1-1 から図 1-4 に示す。2017年度と2018年度を比較すると、1年生から3年生については、最終的な合格率にほとんど変化がなかったが、1年生の最終合格率は昨年よりも更に上昇し、73.6%だった。一方で、4年生の合格率は約2%ほど減少し、7月以降の合格率にも2017年度よりも少なかった。この結果を見ると、1年次にIT講習会を修了しないことが、いかに卒業へのリスクをもたらすかを如実に示している。

そして、学部別の最終的な合格率については図 2 に示す通り、2017年度と2018年度を比較すると、文学部、国際政治経済学部、総合文化政策学部、教育人間科学部で改善が見られた。特に、文学部は2017年度の52.4%から2018年度は58.3%へ、大きく改善がみられた。逆に、経済学部は昨年度の62.4%から今年度は54.9%へと、大幅な減少がみられた。その他、国際政治経済学部、総合文化政策学部は微増、文学部、経営学部はほぼ横ばいであった。法学部では、2014年度の合格率が50%を下回ったことから、2015年度から学部として積極的な履修を促すよう試みて頂いているが[2,3,4]、今年度の合格率は53.8%であり、ほぼ昨年度並みであった。

図 3、4 に、Web ベースの質問記録システムを利用して取得した、IT-A が履修者から受けた質問数について、IT講習会の科目別に前期・後期それぞれ時系列データとして示す。前期は、4月初めはウィンドウとファイルの操作、あるいはWeb検索、ブラウザ操作といった基本操作に関する質問が多く、5月に入るとWord、Excelに関する質問が増加する。Excelに関する質問は前期中一貫して多い一方で、Wordに関する質問は5月中においてはコンスタントに見られるが、6月下旬になるとそ

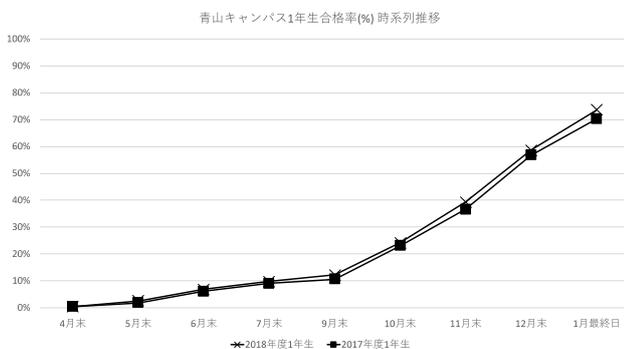


図 1-1 青山キャンパス 1 年生合格率 (%) 時系列推移

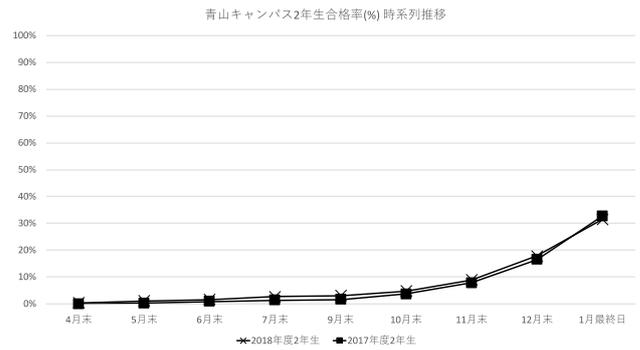


図 1-2 青山キャンパス 2 年生合格率 (%) 時系列推移

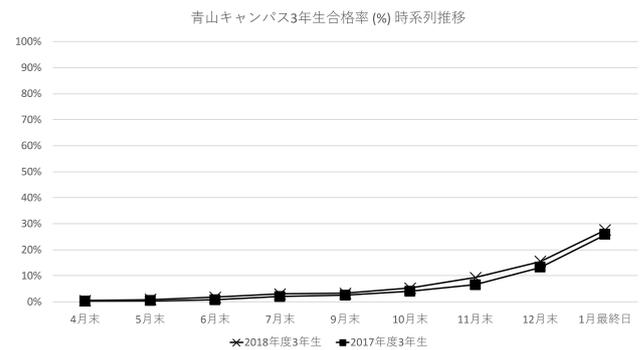


図 1-3 青山キャンパス 3 年生合格率 (%) 時系列推移

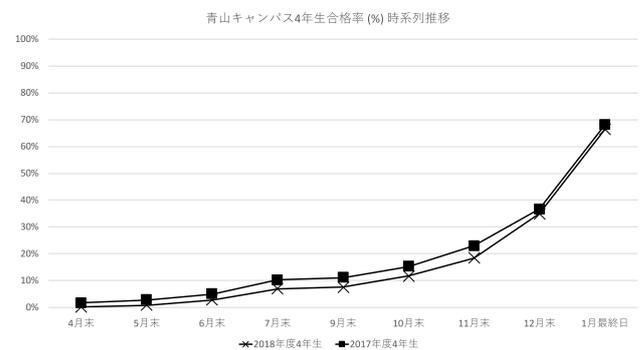


図 1-4 青山キャンパス 4 年生合格率 (%) 時系列推移

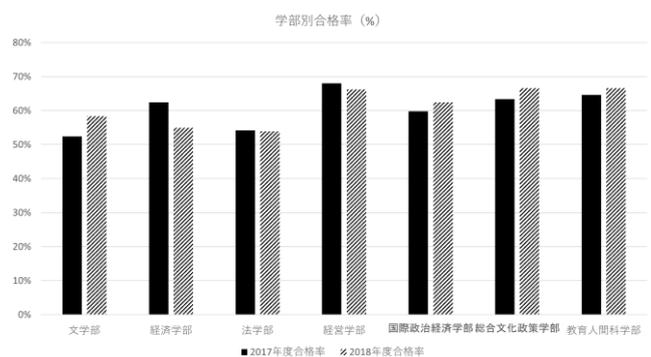


図 2 青山キャンパス学部別最終合格率 (%、各学科 1~4 年生を合計)

の数は減少する。これは、多くの履修者が学期末のレポート課題や試験に向けた取り組みを始めるためと推測できる。

後期も一貫して Excel に関する質問数が多く、それよりはやや少ないものの、文書作成、プレゼンテーションに関する質問も多い。Excel に関する質問の中では、IT 講習会の 8 科目のうち、最も学生が躓きやすいとされている表計算中級で出題される Excel の IF 関数とその組み合わせ関数に関する質問が多い。標準的な学習進度の学生がこの科目に到達する時期である 9 月末、やや遅めの学生が到達する 11 月末、そして極めて進度の遅い学生が到達する 12 月末の 3 つの時期において、質問数が多くなっている。

「2015 年度 IT 講習会に関する報告[3]」にて述べた通り、特に 2015 年度の 1 年生合格率が 6 割を下回った法学部において、新入生ガイダンスなどで、1 年生の間に友人同士で積極的に履修することによる早期の合格を促して頂いた。今年度も、昨年度に引き続き法学部の合格率にさらなる改善が見られた。しかしながら、青山キャンパスにおいては、すべてが文系学部であるという点を差し引いても、必修科目として位置付けられている情報スキル I、すなわち IT 講習会の合格率が 1 年生で 7 割程度というのは、やはり少々低いと言わざるを得ない[3]。そのため、先に言及した 1 年次に IT 講習会を修了しないことによる、就職活動および卒業へのリスクを年度初頭のオリエンテーションで周知し、それにより概ね 1 割程度 1 年生の合格率を上乗せできるようにし、全体的な合格率の底上げを目指したいと考えている。

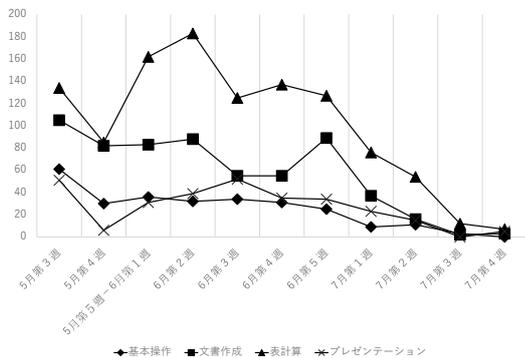


図3 青山キャンパス自学自習 (1113) 教室での質問内容と数の時系列推移 (前期)

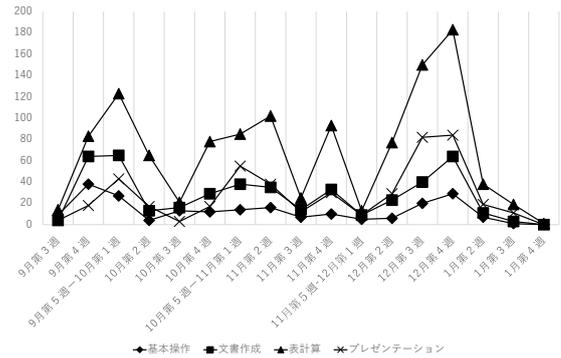


図4 青山キャンパス自学自習 (1113) 教室での質問内容と数の時系列推移 (後期)

2.2 相模原キャンパス

まず、相模原キャンパスの学年別合格率推移を、図5-1から図5-4に示す。また、相模原キャンパス学科別最終合格率(各学科1~3年生の合計)を図6に示す。2018年度の履修者数は1年生が1034人、2年生が156人、3年生が118人、4年生が29人であった。最終的な合格率は、1年生については83.8%で昨年度と比較してわずかながら(1.8%)増加した。2年生については40.4%であり、昨年度の28.9%と比較して大きく増加した。3年生については34.7%と、昨年度と比較してほぼ同等であった。2018年度に履修者として初めて加わった4年生は79.3%であり、これはすべて地球社会共生学部の学生である。学科別にみると、ほとんどの学科で2017年度より合格率は上がっている。特に電気電子工学科は8.7%と大きく増加しており、次いで地球社会共生学部も7.8%、そして経営システム工学科が3.7%、化学・生命科学科が3.0%、機械創造工学科が2.5%、情報テクノロジー学科が1.7%の増加となった。一方で物理・数理学科は1.6%の減少、また社会情報学部については5.9%の減少となり、特に社会情報学部の減少が目につく。社会情報学部では、IT講習会の早期の修了が別の必修科目の単位取得の前提となっているにもかかわらず、合格率が年々低下しているため、2019年度以降もこの傾向が続かないよう、学生の履修状況に注意する必要がある。

ここで、地球社会共生学部に着目すると、まず1年生の合格率は63.6%と昨年度の58.9%を上回り、2年生は26.2%(昨年度19.1%)、3年生も39.4%(昨年度29.2%)と、1~3年のすべての学年で向上した。また先述の通り、4年生は79.3%であったが、2018年度に卒業を予定していなかった学生以外は修了できた。これは、情報メディアセンターのIT講習会担当教員と、地球社会共生学部

の情報スキルI科目担当教員が緊密に連携し、履修者に早期の修了を積極的に促したことが功を奏したものである。同学部では1年次での情報スキルI科目の単位取得が推奨されている一方で、多くの学生が1年次で合格しないことが問題となっていたが、2018年度についてはこの問題がある程度改善された。また、2017年度のIT講習会報告[5]にて述べた、留学から帰って来た後に履修する3年生・4年生へのケアについても成功している。2018年度から当該学部の学生を積極的にIT-Aに迎えており、今後はさらに学部の特徴を加味した自学自習の支援に取り組む予定である。

一方で、理工学部と社会情報学部では情報スキルI科目の単位取得が4年次進級要件になっている。それにもかかわらず、3年次の合格率が理工学部全体で35.5%と低い水準にある。2年次での合格率も55.6%とあまり高くない。後期の11月前半から自学自習室およびスキルチェック教室にIT講習会スケジュールの掲載に加えて終了日を目立つように掲示しているが、とりわけ1年次に修了できなかった理工学部学生への更なるケアが必要である。

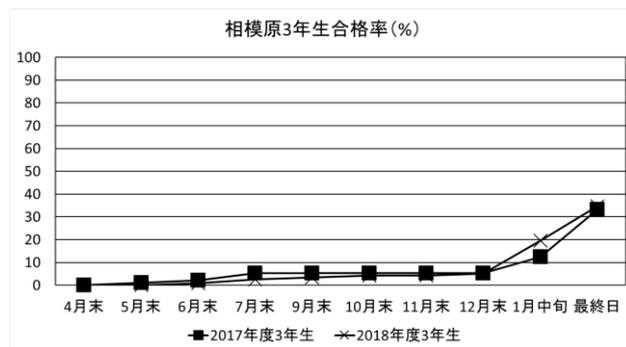


図5-3 相模原キャンパス3年生合格率 (%) 時系列推移

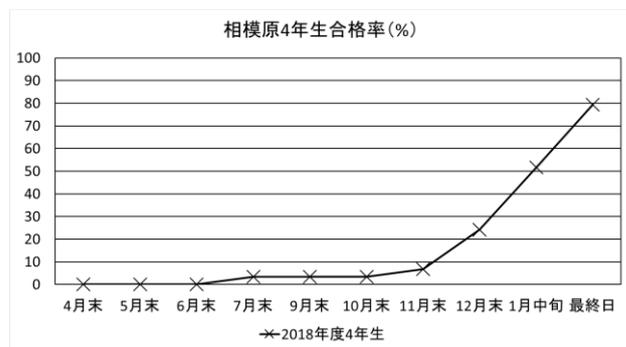


図5-4 相模原キャンパス4年生合格率 (%) 時系列推移

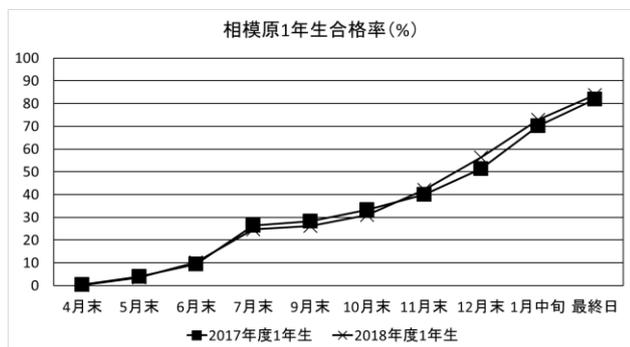


図5-1 相模原キャンパス1年生合格率 (%) 時系列推移

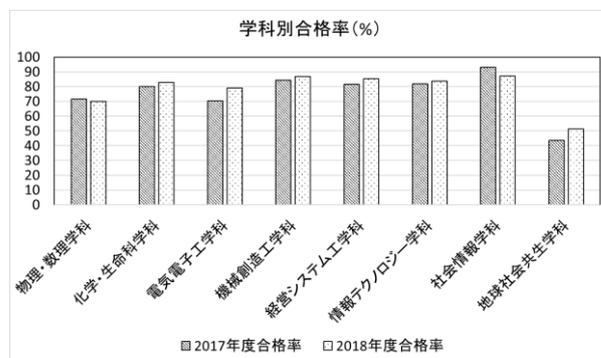


図6 相模原キャンパス学科別最終合格率 (%)、各学科1~3年生を合計

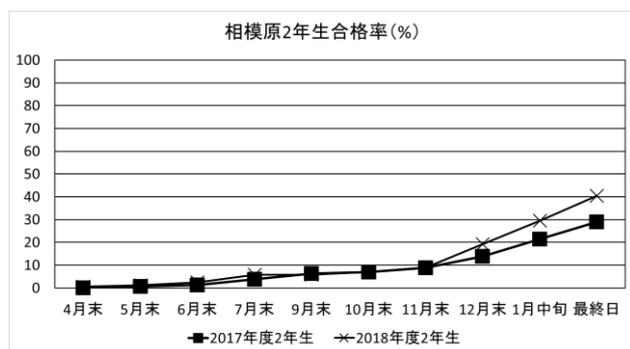


図5-2 相模原キャンパス2年生合格率 (%) 時系列推移

図7に、受検開始者数と修了者数の推移を示す。4月中に740人(約55%)の履修者がIT講習会スキルチェック受検を開始している。以後、夏季休暇までは緩やかに増加し、後期が開始する9月以降に再び増加する。一方、修了者数は前期末の7月と11月以降に急増する。前期末に増加する理由は、先述の通り社会情報学部では、IT講習会の早期の修了が別の必修科目の単位取得の前提となっているためである。

図8に、受検開始から修了までに要した日数別人数

を示す。修了までに要する日数の平均は約 152 日だが、121~160 日での修了者は少ない。これは夏季休暇が日数に含まれるため、前期に受検を開始して後期に修了すると 160 日以上かかることが原因である。今年度最も多いのは 61~80 日までの間で修了した 132 人である。次に多いのが 221~240 日までの間で修了した 117 人、それとほぼ同等なのが 261 日~280 日までの間で修了した 115 人である。特に理工学部は実験などによって自学自習の時間を十分に確保することが困難な履修者が多く、早めに着手したとしても修了時期が遅くなるケースが見られるため、そうした点を考慮して IT-A による自学自習のサポートを展開している。

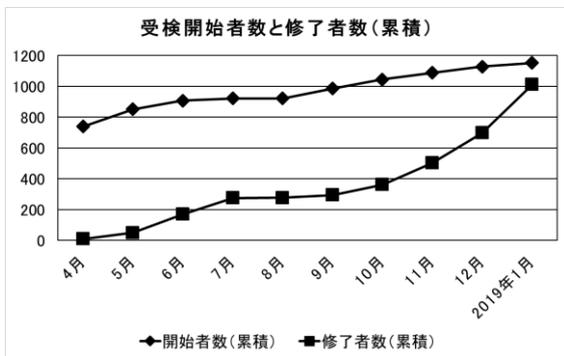


図 7 受検開始者数と修了者数の時系列推移 (相模原キャンパス)

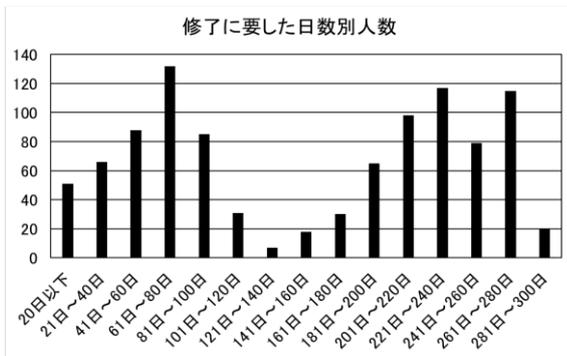


図 8 受検開始から修了までに要した日数別人数 (相模原キャンパス)

図 9, 10 に、Web ベースの質問記録システムを利用して取得した、IT-A が履修者から受けた質問数について、IT 講習会の科目別に前期・後期それぞれ時系列データとして示す。前期については、5 月第 3 週に質問数がピークとなる。これは社会情報学部 1 年生の科目履修に由来しており、5 月末までに IT 講習会を修了した場合、その後の科目履修に有利となるためである。後期については、11 月第 3 週と IT 講習会終了間際の 2019

年 1 月前半に質問数がピークとなっており、またプレゼンテーション科目の質問数が後期の後半にかけて増加する傾向にある。これは、特にプレゼンテーション科目において、スライドマスターの設定に関する問題の難易度が高く、多くの履修者がこれを質問するためである。同様の時期に「その他」の質問数も増加しているが、これは IT 講習会を修了したことを証明する修了証の発行手順に関するものが大半を占めている。

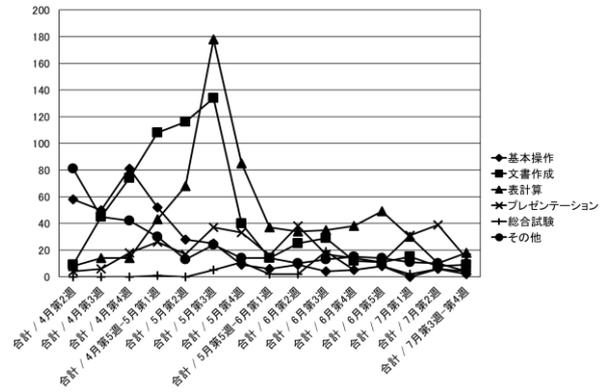


図 9 IT-A が履修者から受けた IT 講習会の科目別質問数の時系列推移 (相模原キャンパス前期)

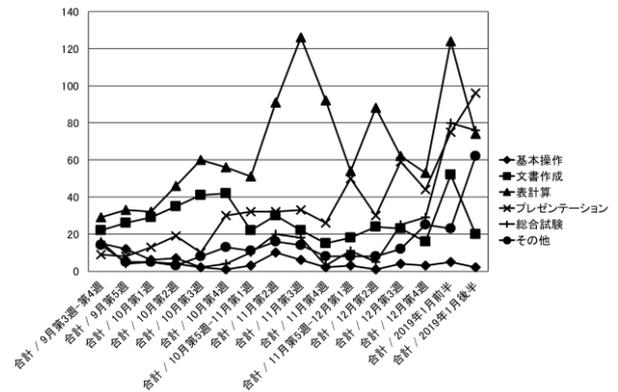


図 10 IT-A が履修者から受けた IT 講習会の科目別質問数の時系列推移 (相模原キャンパス後期)

3. IT-A が取り組む 2 つの学習支援

IT 講習会は自学自習のスタイルを基本としている。本学の多くの学生はコンピュータに対して苦手意識があり、特に青山キャンパスは文科系学部が多く、その傾向が強い。得意でない学生でも修了できているのは、「学び方」を身に付けているからだろう。自分で計画を立てて、習得することに励み、分からないことは放置せずに解決する、といった中に、自分に合った何らかの学習方略を身に付けていなければ、全科目に合格し、IT 講

習会を修了することはできない。

IT講習会を修了した者を対象にしたアンケートで、履修者自身が最も活用した学習方略について尋ねた。図11は、回答時期（修了時期）を横軸に、どのような学習方略を最も活用したかを積み上げ縦棒グラフで示した。棒グラフ内の数値は回答件数を示す。なお、2017年度の青山キャンパスのみのデータを扱っており、履修者5,340名のうち3,156名が修了した。そのうちの2,136名がアンケートに回答した。「推奨テキスト以外の市販本」「PCやアプリケーションのヘルプ機能」「Webページの検索」「図書館」は「d.本や検索で調べる」にまとめた。「e.その他」は、現在はほとんど提供されていない「IT講習会推奨テキスト『図解できるシリーズ』」「補講や大学の情報関連の講義」である。

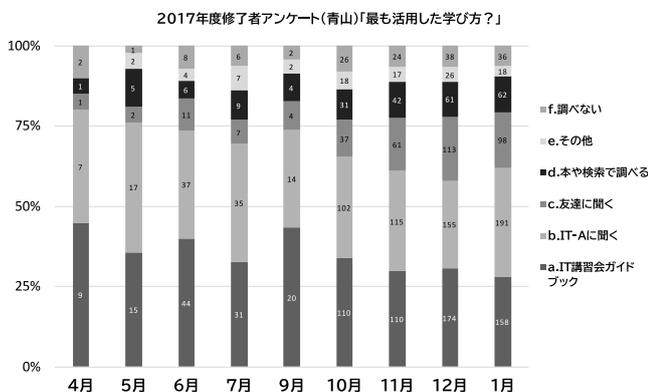


図11 修了時期によらずIT-Aが貢献する学習方略が選ばれた(2017年度青山キャンパス修了者2,136名)

IT講習会の学習内容は、一般的な書籍やウェブサイトでも調べても解決できる。しかし、圧倒的に「a.IT講習会ガイドブック」と「b.IT-Aに聞く」が多く、修了時期に関わらない。修了した時期によって、少しずつ増えているのは「友達に聞く」である。特に1年生の場合は、どの友達に聞けばよいか、まだ分からない可能性が高い。IT講習会の場合、学習方略は大きく分けて「読んで理解したいタイプ」と「人に聞いて理解したいタイプ」がいるだろう。前者は、「d.本や検索で調べる」と比べて、IT-Aが履修者の傾向に合わせて毎年改良を重ねている専用テキスト(ガイドブック)の貢献が大きい。後者はIT-Aが履修者の質問を受け、分からないところを具体的に聞き出し、直接的に操作を教えるのではなく、共に考えるスタイルで教えることで、習得へと導いている。

したがって過半数の履修者はIT-Aの活動に関わる学習方略を最も活用したことがわかる。毎年度末に行っ

ているガイドブックの編集と、IT-A同士が履修者への教え方を学ぶ研修(教え方研修)の活動は、次の年度の履修者のために大きな効果を及ぼすことがわかる。次節では今年度の教え方研修の活動を報告する。

4. IT-A 同士の学び合いを高める活動

次年度新規採用予定者を含むIT-Aを集め、年度末に「教え方研修」を各キャンパスで実施している(図12, 13)。本節では青山キャンパスでの活動を取り上げて報告する。

先にも述べたように、履修者からの質問対応は、そのまま教育効果に直結するとも言えるほど、重要なものである。しかし、IT-Aによって質問対応の仕方は、IT-A自身の習熟度や対応のノウハウの差によって異なる。日々のIT講習会でも先輩から受け継がれるものはあるが、こういった研修を通して、見直す場を設けている。

「教え方研修」の主な目的は、新規採用予定のIT-A(新IT-A)のために先輩IT-Aが履修者役となってロールプレイングを行い、質問対応のシミュレーションを行うものである。今回は先輩IT-Aも見直す場になることを目指した。

まず、よくある質問例を提示し、それについてどのように対応するかを議論させた。この質問例は採用面接時に与えた課題とよく似たものである。新IT-A同士のペアをつくり、面接の時にどのように回答したかを互いに話し合うよう指示した。先輩IT-A同士もペアをつくり、質問例に対して、より具体的な仮定の履修者像と、自分ならどのように応えるかを話し合わせた。

次に、新IT-AがIT-A役に、先輩IT-Aが履修者役となって質問対応を模したシミュレーションを行った。新IT-Aのペアと先輩IT-Aのペアをグループにして、新IT-Aの対応について先輩IT-Aがコメントしたり、実際にはどのような質問があったり、どのような対応が望ましいかなどの意見を交わすようにした。新IT-Aは複数の先輩IT-Aから様々な意見をもらうことは新IT-Aにとって有益であるのはもちろん、他の意見を述べる仲間のIT-Aを観察したり対話することは、先輩IT-A同士でも有意義だったと思われる。今後も「教え方研修」の効果的な設計について検討していきたい。

IT-Aは、11月末の書類選考までにIT講習会を修了していることを応募条件にしており、多くは1年生で応募する。1年生履修者のうち応募資格があるのは約4割で、決して多くない。しかし、日頃IT-Aとして教える

立場であっても、苦手意識が払拭できない IT-A もいる。一方で、Microsoft Office Specialist (MOS) を取得している IT-A もいる。しかし MOS を取得した IT-A に聞くと、独学で取得した、と答えた。IT-A というコミュニティにいながら、残念ながら学び合う関係性にはないようである。しかし、できれば、独学よりも、他の学生と一緒に学ぶ場のほうが好ましいらしいことがわかった (図 14)。彼らも IT 講習会の履修生と同じように、学生同士で学び合う場を求めている。今後、IT-A 同士の学び合いを高める活動に取り組みたい。



図 12 教え方研修の様子 (青山キャンパス)



図 13 教え方研修の様子 (相模原キャンパス)

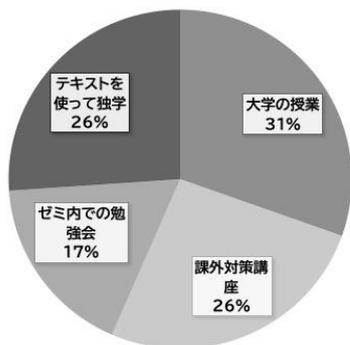


図 14 MOS を取得するならどんな学習機会が良いか？
(青山キャンパス IT-A 26 名)

5. おわりに

IT 講習会は、自学自習形式という特殊性ゆえに、過年度生をはじめとして上手く馴染むことができない一部の学生を生んでいることも事実であるが、2014～2017 年度と同様[2,3,4,5], 2018 年度はこうした学生に対し、情報メディアセンターの IT 講習会担当教員により、授業支援システム CoursePower を利用して細やかなメンタリングを行っただけでなく、とりわけ相模原キャンパスにおいて、地球社会共生学部の情報スキル I 科目担当教員と緊密に連携し、同学部の 4 年生の履修進捗状況に注意を払い、無事単位取得へと導くことができた。

2019 年度についても、各学部の情報スキル I 科目担当教員および教務主任の教員と必要に応じて緊密に連携し、各学部からの提案にも真摯に耳を傾け、より合格率を向上させるよう努力していく所存である。

参考文献

- [1] 2018 年度 IT 講習会ガイドブック, 青山学院大学附置情報メディアセンター, 2018.
- [2] 大平哲史, 丸山広, 大足恭平, 村上雄大, 2014 年度 IT 講習会に関する報告, 青山インフォメーション・サイエンス, Vol.42, No.1, pp.40-43, 2014.
- [3] 大平哲史, 丸山広, 町支大祐, 2015 年度 IT 講習会に関する報告, 青山インフォメーション・サイエンス, Vol.43, No.1, pp.40-45, 2015.
- [4] 大平哲史, 町支大祐, 内田瑛, 槌屋洋亮, 丸山広, 2016 年度 IT 講習会に関する報告, 青山インフォメーション・サイエンス, Vol.44, No.1, pp.68-74, 2016.
- [5] 大平哲史, 内田瑛, 槌屋洋亮, 丸山広, 2017 年度 IT 講習会に関する報告, 青山インフォメーション・サイエンス, Vol.45, No.1, pp.22-28, 2017